

（旧料亭「蓬嶋楼」 1 階奥座敷）

旧料亭蓬嶋楼：1 階の座敷と庭

この建物のこの部分は、大正時代（1912 年～1926 年）に追加され、お客をもてなすための広々とした座敷が含まれています。他の部屋と同様に、この空間は上質な素材で構築され、高級レストラン（料亭）にふさわしい興味深いデザイン要素を備えています。たとえば、床の間というアルコーブの近くにある窓は、異なった視点から見ると収束または分離するように見える細い線でできた菱形のパターンを特徴としています。中央の大きなテーブルはトチの一枚板にナラ材で縁取りされており、テーブル上の金属のように見える照明器具は、実際には光沢のある漆を塗った木材で作られています。

装飾と芸術作品

座敷には、さまざまな芸術作品や装飾品があります。芸術作品の 1 つは、明治時代（1868 年～1912 年）の「飲中八仙図」と題された絵画です。このシーンは、影響力のある中国の詩人、杜甫（712 年～770 年）の詩に基づいており、酒を愛する 8 人の唐王朝の学者のグループを描いています。床の間には風景を描いた掛軸が掛かっています。反対側の壁の書道は、208 年の重要な赤壁の戦いの直前に中国北部の将軍、曹操（155 年～220 年）が口にしたと言われる詩を表しています。

庭

1 階の座敷の外にある廊下は、料亭の主な庭に沿っています。引き戸には、明治時代の匠みな吹きガラスの希少で貴重な例であるガラス板が取り付けられているため、景色はほとんど妨げられません。庭自体は、巧みに配置された植物に囲まれた小さな池を中心にしています。池の向こう側には、海運にまつわる神である金比羅権現こんびらごんげんをまつる祠があります。料亭に金毘羅神社があるのは珍しいことですが、小浜は港町として賑わいを見せていたことから、この神様はおそらく多くのお客から信仰されていたのでしょう。